

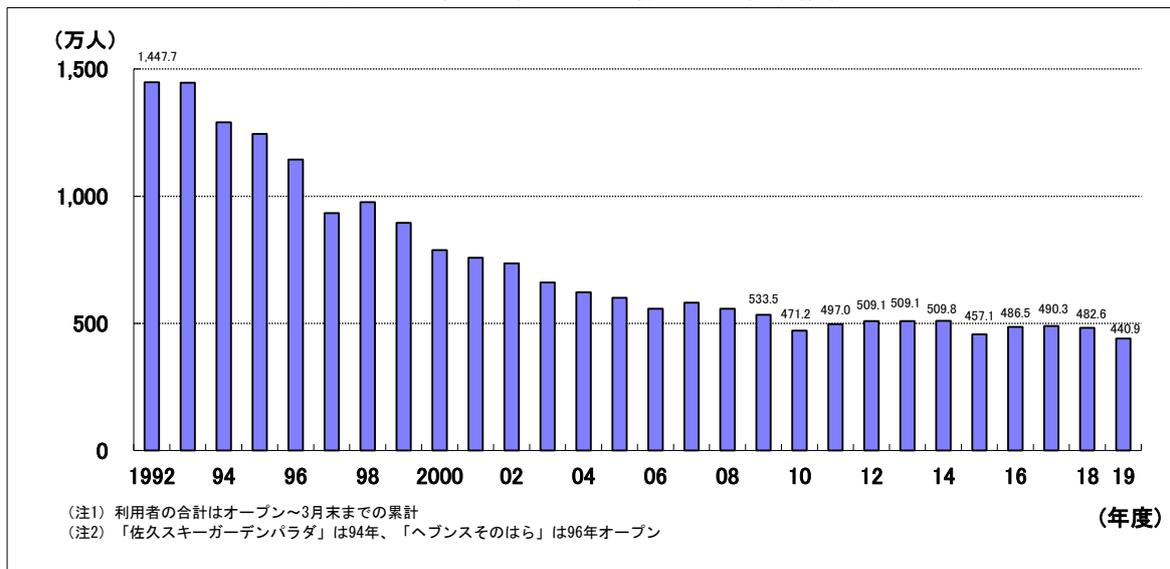
2019年度県内主要スキー場利用動向調査（速報）

～利用者数は2年連続で減少、雪不足と新型コロナウイルスが影響～

1. 利用者数は2年連続で前年度を下回る（図表1）

- ・2019年度の県内主要23カ所のスキー場利用者数は、前年度（482万6千人）を41万7千人下回る延べ440万9千人、前年度比△8.6%と、2年連続で前年度を下回った。
- ・雪不足や軽井沢スキーバス転落事故（2016年1月）の影響がみられた2015年度の457万1千人を下回り、当研究所の調査開始以来、過去最低を更新した。

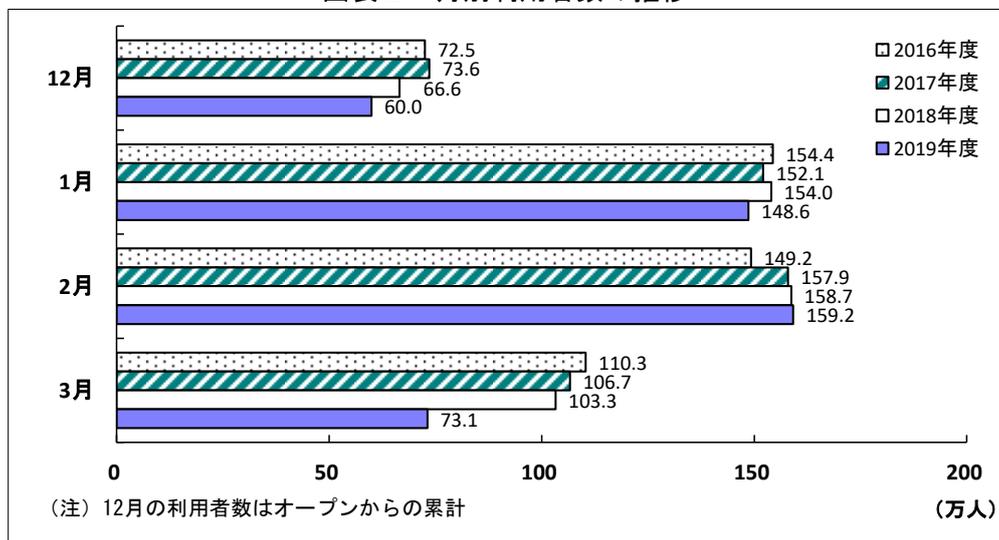
図表1 県内主要スキー場の利用者数推移



2. 雪不足と新型コロナウイルスの影響により2月以外は前年度割れ（図表2）

- ・12月は、寒気の南下が弱く各地で平均気温が高かったため、多くのスキー場で前年度に比べオープンの遅れや滑走エリアの制限がみられた。県中部の一部のスキー場では降雪機により少雪に対応できたものの、全体的には記録的な雪不足に見舞われ、前年より利用者数が減少した。
- ・1月も雪不足が続き前年を下回った。2月は雪量が確保できた県北部のスキー場を中心に利用者数は前年を上回ったが、中国などの外国人利用者が伸び悩んだ。
- ・3月は新型コロナウイルスの影響による外出自粛や団体利用のキャンセルが相次いだことに加え、気温の上昇により積雪量が不足したこともあり、対前年3割の減少となった。

図表2 月別利用者数の推移



3. 利用者数が前年度割れのスキー場は19カ所（図表3）

- ・主要23スキー場の約8割にあたる19カ所のスキー場で、前年度に比べて利用者数が減少した。
- ・県中部・南部では、シーズン前半に雪量を確保して利用者数を伸ばすスキー場があったものの、後半は首都圏方面からの利用が落ち込んだ。
- ・県北部のスキー場では、オープンが遅れるなど厳しいシーズンインとなった。雪量を確保した2月に利用者を集めたスキー場もあった。
- ・外国人利用者は、オーストラリアに加え台湾や中国などアジア系の利用者が目立った。しかし、新型コロナウイルスの影響により3月には大幅に減少した。

図表3 2019年度県内主要スキー場の月別利用者動向

スキー場	市町村	利用者数(千人)					前年比(%)				
		2019年12月	2020年1月	2月	3月	合計	2019年12月	2020年1月	2月	3月	合計
佐久地域		108	138	132	58	435	▲ 3.2	▲ 9.0	▲ 12.3	▲ 31.7	▲ 12.6
佐久スキーゲレンデ バラタ	佐久市	7	33	36	10	86	▲ 40.9	▲ 18.3	0.0	▲ 40.7	▲ 18.0
軽井沢プリンスホテル	軽井沢町	93	85	76	38	293	1.1	▲ 7.9	▲ 18.4	▲ 32.5	▲ 12.5
しらかば 2in1	立科町	8	20	19	10	57	0.6	5.6	▲ 6.3	▲ 15.7	▲ 3.5
上小地域		55	113	145	59	373	6.4	14.0	8.8	▲ 32.2	0.2
湯の丸	東御市	23	55	55	40	173	1.4	18.5	24.0	▲ 7.1	10.5
菅平高原	上田市	32	58	90	19	199	10.3	10.0	1.3	▲ 56.8	▲ 7.3
諏訪地域		35	82	84	34	235	12.1	3.9	▲ 2.6	▲ 28.9	▲ 3.7
車山高原	茅野市	18	33	35	14	101	17.6	2.2	0.2	▲ 33.6	▲ 3.6
富士見パノラマ	富士見町	17	49	49	19	134	6.9	5.1	▲ 4.5	▲ 25.0	▲ 3.7
下伊那地域		3	13	13	3	33	▲ 23.1	▲ 14.4	▲ 15.8	▲ 24.3	▲ 17.0
ヘブンスそのはら	阿智村	3	13	13	3	33	▲ 23.1	▲ 14.4	▲ 15.8	▲ 24.3	▲ 17.0
木曾地域		2	13	14	11	39	20.6	84.7	41.6	9.6	39.7
おんたけ2240	王滝村	2	13	14	11	39	20.6	84.7	41.6	9.6	39.7
松本地域		6	21	26	12	66	▲ 26.4	▲ 12.1	▲ 0.4	▲ 26.5	▲ 12.7
マウント乗鞍	松本市	6	21	26	12	66	▲ 26.4	▲ 12.1	▲ 0.4	▲ 26.5	▲ 12.7
大北地域		163	408	402	168	1,141	5.0	▲ 4.2	▲ 4.9	▲ 30.8	▲ 8.5
鹿島槍	大町市	9	32	31	9	81	▲ 19.6	▲ 7.3	▲ 1.9	▲ 42.8	▲ 13.1
白馬八方尾根	白馬村	43	112	97	45	296	▲ 1.1	▲ 14.5	▲ 22.8	▲ 34.8	▲ 19.6
白馬岩岳	白馬村	2	15	25	7	48	▲ 71.3	▲ 63.5	▲ 52.4	▲ 61.9	▲ 58.8
白馬五竜・47	白馬村	92	159	149	74	474	52.4	24.8	22.0	▲ 11.5	20.4
梅池高原	小谷村	17	91	101	33	241	▲ 48.2	▲ 2.7	9.5	▲ 41.9	▲ 12.2
長野地域		16	76	85	32	208	▲ 48.8	▲ 29.2	▲ 8.1	▲ 41.3	▲ 26.8
タンクラムスキーカス	信濃町	4	31	32	10	78	▲ 65.1	▲ 10.6	▲ 0.9	▲ 46.5	▲ 21.0
黒姫高原スノーパーク	信濃町	3	10	19	2	33	▲ 70.3	▲ 73.9	▲ 35.6	▲ 90.3	▲ 64.7
戸隠	長野市	8	35	34	20	97	▲ 0.5	2.3	10.5	8.2	6.0
北信地域		212	622	690	354	1,879	▲ 21.9	▲ 1.4	6.2	▲ 27.0	▲ 7.8
戸狩温泉	飯山市	3	32	47	15	97	▲ 73.8	11.6	9.4	▲ 33.2	▲ 7.5
斑尾高原	飯山市	9	52	65	21	148	▲ 60.2	▲ 9.3	▲ 7.4	▲ 42.1	▲ 21.4
志賀高原	山ノ内町	128	279	289	161	857	▲ 5.0	4.9	14.9	▲ 24.1	▲ 0.8
北志賀高原	山ノ内町	43	127	164	106	440	▲ 4.4	▲ 9.3	0.6	▲ 24.8	▲ 10.0
野沢温泉	野沢温泉村	30	132	125	51	338	▲ 49.5	▲ 4.9	2.4	▲ 30.2	▲ 14.0
県内主要23スキー場合計		600	1,486	1,592	731	4,409	▲ 9.9	▲ 3.5	0.3	▲ 29.2	▲ 8.6

(資料)調査票をもとに長野経済研究所作成

(注1)四捨五入の関係から、各月の和が合計に一致しない箇所がある

(注2)12月の利用者数はオープンからの累計

(注3)「志賀高原」は志賀高原18スキー場、「北志賀高原」は4スキー場の合計

(注4)2014年度から「Hakuba47ウィンタースポーツパーク」は「白馬五竜」と合算

【調査の概要】

1. 調査対象

当研究所が毎年、定点調査している県内の主要スキー場23カ所（県内スキー場利用者数全体のおよそ7割に相当）

2. 調査対象期間

2019年11月以降のオープン～2020年3月31日まで

3. 調査方法

当該スキー場ないしスキー場を管轄する市町村に調査票を配布・回収した

4. その他

詳細は「経済月報6月号」に掲載予定

照会先 長野経済研究所
調査部 寺嶋・三井（隆）
電話 026-224-0508

以上